

太郎通信

TARO-TSUSHIN

YASAKA × DATE

ANIMAL CARE CENTER

ANIMAL HOSPITAL

Vol. **2**
March, 2024

OneVETヒストリー

新人スタッフ紹介

NAKAYOSHI KONBI

2023年のできごと

実習アンケート

秋の思い出写真

似顔絵選手権

岡山統一!

はじまりと、
これから。



OneVETヒストリー

OneVETのはじまりと、これから。

Q1 なぜ2人で一緒に会社をしようと 思ったんですか？

大石 OMOIが一個の起点になっている。伊達はその時からずっと変わらなくて、「素晴らしい人と素晴らしい機械に囲まれながら臨床をしたい。」って言ってたよね。

俺は、**ずっと岡山を統一したいってのがあって、働き方とか人を流動化させた方がいいな**と思っていたので、そういう意味合いで合併はその頃からずっと視野には入っていたかな。伊達は機械を入れたいのが大きかったよね。

伊達 うーん、病院を大きくしたかったのは1つあったかな。大きな投資で大きな成長をしていくのは太郎と一緒に達成できるかなって言うのは1つだけど、今でも思っているのは、太郎の存在や魅力に惹かれたのもあるし、直感的にこの人が運命の人だと感じたからかな。だから太郎にベツトしたい(賭けたい/託したい)って思ったんだよね。「太郎と出合って、太郎に賭けてみたい、**太郎の下についてみたい**」と思えたし、自分の成長の伸び代も考えて、自分の会社を畳んで太郎と一緒にになった。

小出 すごいなあ。なんとなく2人でやったら面白そうだなよね。みたいな話はあったんですか？

大石 俺は、伊達と価値観が全然違うからおそらくバトルとは思ってたけど、伊達の男気？背水の陣でしか生きていけない感じが僕にはなくて刺激だった。嫉妬したり一緒にいてやりにくい人と仕事した方がいいな。って思ったし、やっぱり仲良しこよしって言うよりは、刺激し合える人だから一緒に会社を建てたい。と思えたのが大きかったかな。

小出 ただの仲良しだとうまく回らないですね。

伊達 **なんか友達以上では当然あるけど、かと言って友達じゃないって関係でもあるのかもしれない。不思議な関係だよな、夫婦ってのが近いのかもしれない。**

小出 病院にも現れていますが、「価値観が結構違うからこそ一緒にやった方がいいよね」ってなった感じですね。

大石 正直何も将来が見えなかったし、挑戦だなと。**お互い違うからこそ、様々な化学反応を起こし合ってるし、ケツ叩かれてる思いにはなるね(笑)**

小出 切磋琢磨してる感じですね。

大石 この年齢でそういう風に思うのは、合併しないと味わえなかったんじゃないかな。

伊達 確かに、孤独感はないな。

小出 経営者って基本孤独ですけど、「孤独感がない」って結構キーワードな気がしますね。従業員には理解してもらえない孤独さとか、いろんな事をお互い共有しながら刺激し合ってる感じですね。

ずっと岡山を統一
したいと思ってた。

お互いの交流が増えて
病院もスタッフも
成長に繋がっていますね。

Q2 一緒にやろう!と声かけたのはどちらからですか?

伊達 俺はOMOIを作る前からずっと言ってたよ。

大石 そうね、伊達は言ってたね。

小出 伊達先生の中では、この人にベットしたい(託したい)って思えるような人が太郎先生だった。って事です。

伊達 まあね。ワンベットだけにね…。

大石 ハハハ(笑)

小出 大石先生は前から伊達先生の思いを聞いてたとは思いますが、いざやるぞ!ってなると結構勇気が必要だったのでは?

大石 うちの老舗だし、お母さん(みちの先生)という大きな存在があったからね(笑)

合併する時は「俺も覚悟したんだから」って言って振り切ったね。合併戦略もほわっと考えてたし、**こことここが業界で繋がったら唯一無二だな**というところがスタートだろうね。



Q3 OneVETになって変わったなと感ずるところは?

伊達 太郎はある程度お金の管理をする立場だとは思うけど、俺は会社が1つになって通帳も1つになったから、だて動物病院のお金や自分の給料も管理されるようになって、創始者なんだけど雇われ院長みたいな感じになったことで、会社から振り込まれる給料での生活感が従業員との空気感というか対等感的な部分が、従業員と近くなったかな。

小出 だて動物病院の売上の伸び方ってすごいんですけど、ワンベットとしてやってるからこそってのもありますよね。太郎先生はどうですか?

大石 **うちはワキアイアイ**なところがあるから、臨床を突き詰める動物病院とグループなのはうちの従業員達にとっては**すごく刺激**になってるのが一個かな。

あとは伊達は臨床に力を入れることが出来て、俺は経営に力を入れるようになってお互い進みたい方向に進み始めてるものもあるかな。

伊達 お互い思い切ったチャレンジがしやすいね。1人でやってたら臨床と経営両方を考えないといけないから。

小出 院長レベルでの良い相乗効果だけでなく、スタッフ側にもそれが起きてきてますよね。互いの交流も増えてきてますしね。

大石 ケントが入ってきてくれて、広報部っていうのが出来たのは本当にデカいな。**広報部が活動し始めて、スタッフもすごく成長**したし、**互いの病院アンケート**もすごい良かったよね。本当にいい相乗効果が出てきてるよね。

小出 病院もスタッフも成長してるし、互いにプラスになってますね。

Q4 一緒にやり始めた頃は順調にいった? 結構苦労した?

大石 伊達の背水の陣に慣れるのは大変だったね(笑)融資面もそうだけど、考えなくとにかく走っていくようなところが(笑)

小出 そういう時は太郎先生はどうしてたんですか?

大石 話はしたけど、どっかでそんな事言ってもつまらんなって思ったね。

伊達 なんか太郎の器が突然3倍ぐらいになったんよ(笑)あれ?って思う瞬間があって、俺に触れて壊れちゃった?って思ったよ(笑)バグっちゃったなって(笑)

OneVET
広報部3人組です!





OneVETっていうかたちで

動物病院の人達が

自由に走り続けられる足場を固めたい。

小出 逆に太郎先生は伊達先生みたいな攻め方はしないですよな(笑)

大石 しないね〜(笑)全然しない(笑)

小出 合併したことで病院のスタッフさん達にも影響はあったと思いますが、その辺りはどうでしたか？

伊達 人とお金は大変になったかな〜。合併したら純粋に人が倍になるんでね。

常に2人で話してるのは、やっぱりスタッフのことだよな。

大石 そうね。

伊達 色んな問題も2倍になって…。けど、太郎が言うんだよ。「色んな問題が起きてそれが2倍楽しめるじゃん」って。だから俺も「2倍一気に経験できるな」って思ってる。

小出 大変だった局面もあったかもしれないですが、楽しみながらって感じですね。

大石 夫婦っていう言い方は非常に良いかも。価値観が違うからこそ違う視点での話や気づき生まれてる。そこで救われた部分もあるね。

小出 互いにリスペクトしてるから違う価値観でも受け入れられるのもあると思います。

大石 お互いお金に執着がないところは共通してる気がするな。

伊達 その価値観は合ってるね。人がいて、人のためのお金っていうお金に対する考え方(順位)が一緒なんだろうな。世間一般的にはお金のために人を雇ってるけど、俺と太郎は根本的にその考え方が違うよね。お金のために人を雇うっていう考えではないね。

小出 思考面での価値観は違えど、そういった結構大事な部分の価値観が合ってるからこそいいですね。経営者視点で考えると、お金のためではなく合併するのは覚悟が必要な事なのに、それをしているのが本当に凄いなと感じます。

Q₅ 今後のOneVETについて

大石 僕と伊達の関係みたいな、そんな奇跡がこの会社の中で生まれたら面白いな。

伊達 理念やコンセプトや社名を一気に変えますよ。みたいなやつが現れて欲しい。

大石 そのあたりは僕が作っていかうかなと思っているけど、この10年でそんなものもぶっ壊すようなやつが出てくるだろうな。

伊達 とんでもない人材が会社を束ねていく。そういう人材に出会ったら獣医でも、獣医じゃなくてもいいと思う。すべてを汲み取りながらそれでもクリエイティブなことを発想してすべてメガヒットして前に進められるような人。獣医は獣医の仕事だけをやってるっていうのが理想。

Q₆ 今いるスタッフに向けて

大石 業界のリーディングカンパニーになるっていうのも最初に掲げた目標の一つなので、動物病院に勤めている感覚じゃなくなる人達がいっぱい出てきたら面白いと思う。OneVETっていうかたちで動物病院の人達が自由に走り続けられる足場を固めたい。OneVET所属の動物病院を支援したり、動物病院業界から違う形で成長やチャンスがある会社っていう風には思います。

伊達 現場に出ているだけが仕事じゃなくて、現場に出てない時間の仕事を作っていくことがOneVETで長く働くためにすごく大事。

大石 広報部みたいな、直接お金を稼いでるわけではないんだけど、付加価値を持った部門ができれば、それはすごい。

小出 仕事を新たに生み出していく。OneVETだからこれもやったらいいんじゃないですか？みたいな意見もできたら、めちゃくちゃ面白いですね。